

我が国の敗因は、陸海軍統帥の分裂

大西洋憲章に致る米英の会談は 日本を真珠湾におびき寄せる謀議！

「日本人が知ってはならない歴史」、このような題を付けた本がある(著者 若狭和朋、発行 朱鳥社)。この度、三部作が完結して、十月三十一日、著者の住まわれる地である岐阜において出版記念会が開かれた。私も発起人として出席させていただいた。

この三部作とは、「日本人が知ってはならない歴史」、「続 日本人が知ってはならない歴史」そしてこの度発行の「日本人が知ってはならない歴史 戦後篇」の三冊のことである。ところで、日本人が知ってはならない歴史などあるのか、妙な題の本もあるものだ、と思う諸兄姉もおられると思う。

しかし、それがあるのだ。そして、それが「戦後」という空間だ、と言わざるを得ない。現に、今ある我が国の内閣、その前の内閣など日本国の歴代の内閣が信奉する「[日本国憲法](#)」の「前文」に書いてある「日本国民は、政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないようにすることを決意し・・・」という事実認識や第九条は、「日本人が知ってはならない歴史」を知れば崩れ去る。もちろん、この[日本国憲法](#)を生み出した「東京裁判」は成り立ち得ない。



最近のスナップから七五三参り(11月1日、明治神宮で)

しかしながら、現在の我が国政治は、その外交・国防政策はおろか内政の重要課題である教育においても、東京裁判から生まれた[村山談話](#)によって自らを縛ったまま漫然と流されるままになっているのはご承知の通りである。

ということは、戦後の日本社会とは、虚偽の歴史の上に成り立っていると云わざるを得ない。まさしく、戦後日本には、「日本人が知ってはならない歴史」がある。よって、戦後から脱却するためには、まさにそれを知らねばならない。以下、改めて留意すべき「知ってはならない」主な点について述べたい。

1、戦時大本営条例の改定、明治36年12月21日

日露開戦の前、陸海軍の軍令(統帥)は平時は並列対等であったが、戦時(有事)には陸軍を主とし海軍を従とする。是が戦時大本営条例であった。この条例の発令より、戦時には陸海軍を統括する最高指揮官(Commander)が決定される。

しかし、日露開戦のぎりぎりの段階に至っても海軍大臣山本権兵衛は軍令の陸海対等を主張して譲らず、陸軍の児玉源太郎参謀本部次長は時局の切迫を考慮して妥協して戦時大本営条例を陸海軍対等並列に改定することに同意した。まさに、日露間に最初の戦闘が起こる50日前である(2月9日仁川港)。

是により、戦時においても陸海軍の統帥は並列対等、つまり、ばらばらとなり、戦争の統一的な指揮運用ができない制度が出来上がった。

この40年後、東京裁判では、東條英樹首相兼陸軍大臣を独裁者とするが、そもそも帝国海軍を指揮統帥できない独裁者などありえない。しかも、東條総理は事前には真珠湾奇襲を知らされておらず、ミッドウェー敗戦に至っては遂に海軍から知らされなかったのである。

このように、我が国の敗因は、陸海軍統帥の分裂にある。つまり我が国の敗因は、Commanderの不在、独裁者の不在にある。東條英樹は、海軍の統帥権を持たされていないのであり、これは戦時の指導者の資格も与えられていないといえる。彼が独裁者なら、ルーズベルトやチャーチルなど、第二次世界大戦中の最も悪質な大独裁者である。



表参道の街頭には日章旗、明治神宮境内では奉納舞が

2、大西洋憲章の発布 昭和16年8月14日

戦争回避のための日米交渉は、昭和16年4月18日から始まる(近衛内閣)。しかし、アメリカの態度は次第に強硬になり、石油禁輸に致るのはご承知の通り。この石油禁輸は、事実上の宣戦布告である。

そこで、注目すべきは、8月10日、11日と行われ14日の大西洋憲章発布に致るアメリカ大統領とイギリス首相の会談である。

この会談はカナダのニューファンドランド沖のイギリス戦艦プリンス・オブ・ウェールズの艦上で行われた。ここでアメリカとイギリスの両首脳であるルーズベルトとチャーチルは、アメリカの「裏口からの参戦」を合意したといわれる。是は日本に参戦させる為の秘密謀議、即ち日本軍を真珠湾におびき寄せる謀議である。

日本海軍の真珠湾攻撃を知ったときのチャーチルの、自ら回想録に書いた喜びそして「ぐっすりと眠ることができた」という安堵感を知るならば、アメリカの「裏口からの参戦」の謀議が為されたことは確実である。さらに、ハルノート発出(11月26日)直後の國務長官コーデル・ハルは、「私の仕事は是で終わった。あとは陸軍と海軍に任せよう」と言ったという。この発言は、「日本に先に手を出させる」という謀議の方針に即した発言である。

よって、アメリカ政府は、此の戦艦プリンス・オブ・ウェールズにおける米英両首脳会談の資料を未だに公表していない。公表すれば、東京裁判など戦後日本占領統治の今に続く根幹がひっくり返るからである。(鳩山首相や岡田外相に歴史観があるならば、佐藤内閣の「核持ち込み」の密約がアメリカとの間であったかなかったかに夢中になるよりも、此の日本の運命に関わる大西洋における米英首脳会談の資料開示をアメリカ政府に求めるべきである。)

ブッシュ前アメリカ大統領は、三年前ヨーロッパのリガで演説し、1945年の米英ソ首脳のヤルタ密約の欺瞞性を指摘して、この密約が戦後ヨーロッパの悲劇を生んだと述べた。しからば、同時にアメリカ大統領は、1941年の大西洋憲章制定に致る米英首脳の欺瞞性も指摘するべきである。

とは言え、ヤルタ密約とプリンス・オブ・ウェールズでの謀議の「アジアにおける欺瞞性」を指摘できるのは、唯一アジアの日本だけである。日本政府は、今こそ歴史回復戦略を立てて「日本人が知ってはならない歴史」を取り戻さねばならない。

そこで米英の「裏口からの参戦」謀議が明らかになれば、東京裁判の主要課題といえる日本の「平和に対する罪」や「戦争に対する共同謀議」などの訴追理由は虚構で歴史の改竄であり「でっちあげ」だ。さらに、この訴追理由に該当するのは、連合国のルーズベルトとチャーチルだということになる。

即ち、東京裁判の欺瞞性が明らかになる。そして、中国や韓国があげつらい、鳩山首相もそれに同調している「靖国神社問題」など吹っ飛ぶ。



靖国神社の菊花展から(11月2日撮影)

3、東條内閣成立 昭和16年10月16日

近衛さんが内閣を投げ出し東條英樹が組閣したのは、10月16日。しかも東條内閣は近衛内閣の「戦争を辞せざる決意」という決定の白紙還元の「聖旨」を賜った上で成立した。

つまり、東條内閣は「和平実現」の為に成立し、外交措置に努力する方針を打ち出す。(しかし、この間も、[連合艦隊](#)は真珠湾奇襲の為に猛訓練を続行中である)。ところが、相手の米英は既に大西洋において「裏口からの参戦」を決定している。外交的措置が通用する相手ではない。

そこで、東條内閣は、11月15日、大本営連絡会議において「対米英蘭蔣戦争終末促進に関する腹案」を決定する。

今から振り返れば、我が国がこの「腹案」の通り進んでいけば、如何に米英が結託して謀議を尽くそうとも、アジアにおいては我が国は勝利したと思われる。この「腹案」は、次の通り。

第一段作戦として、先ず極東の米英蘭の拠点を制圧して自存自衛体制を確立する(南方作戦)。その上で第二段階としてインド洋を制圧してインドの独立と英国の屈服を図り、補給ルートを切断して[蒋介石](#)を屈服せしめる。それによって、百万のシナ派遣軍を大陸から出して運用の自由を獲得する(西亜作戦、対支作戦)。そして、対米作戦は、米国の反攻は昭和十八年後半以降と予見し、近海の防壁ラインにより迎撃する(この米軍反攻の予測時期は、ずばりの中している)。

この東條内閣の「腹案」の決定は、11月15日である。ここには、政府にも陸軍にも知らされていないのであるから当然であるが、[連合艦隊](#)による真珠湾奇襲の発想など全くない。

しかし、この11日後の11月26日に届けられたのが[ハルノート](#)であり、まさに同日南雲忠一指揮下の真珠湾奇襲艦隊は[ハワイ](#)真珠湾に向けて択捉島のヒトカブ湾を出航しているのである。ここに看られるのは、統一的な国家意思の策定不能、つまり国家組織の分裂である。そして、この淵源は、明治36年の戦時大本営条例改定にある。

とは言え、対米戦争は真珠湾奇襲という、今に至るも「悪者は日本」という汚名の口実にされた国家意思の分裂によって始まったが、開戦の初期は、東條内閣の「腹案」の通り進んだ。

即ち、第一段階は速やかに見事に達成された。欧米の東洋制覇の象徴である[シンガポール](#)は2月に陥落する。六ヶ月前に大西洋においてルーズベルトとチャーチルの米英両首脳が謀議をこらした英国の戦艦プリンス・オブ・ウェールズは、この時マレー沖で帝国海軍機により撃沈される(あえて言う、痛快である)。

第二段階の西亜作戦においても、インド洋制圧はほぼ達成されつつあった。そうなれば、[インド](#)独立・[イギリス](#)屈服、[蒋介石](#)支援ルート切断・[蒋介石](#)屈服は確実になる。

ところが、ここにおいて、またもや何を考えたのか、[連合艦隊](#)司令長官の山本五十六は、[連合艦隊](#)をインド洋から出してミッドウェーに持って行った。そして、ミッドウェーにおいて空母機動部隊が壊滅した。ここから海軍のみならず日本が潰滅する方向にベクトルが回り始めるのだ。

しかし、海軍は政府の意思と無関係に動くので、東條内閣は[連合艦隊](#)がインド洋から何故出たのか、何処に行ったのか、どうなったのか、健在なのか、知らないのである。海軍は、全戦争期間を通じて「大勝利、大勝利」と嘘の発表をするのみだった。

さて、以前にも[インド](#)洋の重要性を書いたが、昭和17年、我が国はインド洋における[プレゼンス](#)を自ら放棄して敗北への道へ転がった。この時、インド洋は、[インド](#)とアジア諸国の欧米からの独立を確保し、我が国に勝利をもたらす海洋として我が国の掌中に入らんとしていた。



10.17国民総決起大会で挨拶する西村慎吾氏

そして今もインド洋は、我が国の経済活動を支える重要な海洋である。この海洋を通るルートがなければ我が国は存立できない。従って、この大切な海洋における我が国のプレゼンスを、またも自ら放棄しようとする現鳩山内閣の動きに不吉な予感がするのである。

このように、歴史を回復することと、国家と国民の安泰を確保するあるべき国家戦略の策定は不可分である。さらに、歴史の回復なくして、我が国の自信と誇りは回復できない。

そして歴史を回復すれば、現在の政界の表面にいる「政治家」といわれる人士が如何に軽薄な輩であるかが分かる。チャーチルが言うように、政治家の使命感は歴史を学ぶことによって得られるからである。

よってこの際、若狭和朋著、朱鳥社(東京都渋谷区代々木1-31-7-201、電話03-5358-3984、FAX03-5358-3986)発行の「日本人が知ってはならない歴史 戦後篇」(新刊)、「日本人が知ってはならない歴史」(既刊)、「続 日本人が知ってはならない歴史」(既刊)を読まれんことを。

眞悟の時事通信 No.460 平成21年11月2日(月) 西村眞悟

・非常に大事な内容だと思い、全文転載しました。

カテゴリ: 政治も フォルダ: 指定なし   

コメント(17)

タグ: [日本人が知ってはならない歴史](#) [若狭和朋](#) [朱鳥社](#) [西村慎吾](#) [日本国憲法](#) [東京裁判](#) [陸海軍の統帥](#) [大西洋憲章](#) [発布](#) [米英密約](#)

コメント(17)

コメントを書く場合はログインしてください。



Commented by **usaginomimi** さん

2009/11/03 08:46

こんにちは。

この夏、「[パール判事](#)の日本無罪論」を読みました。

日本びいきでもなんでもない[パール判事](#)が、「国際法上ありえない」と断じた東京裁判。その真実をこの年齢になるまで知らなかったことにぞっとしました。

[パール判事](#)が憂慮していた、東京裁判の手法は国際法を真摯に作ってきた人類の歴史への冒涇だという内容に、私も深く頷きます。

世界の80パーセントが植民地だった時代のことに対し、日本をのみを裁く、しかも事後法で裁いたという暴挙は、まさにリンチと呼ぶにふさわしい「事件」だったと思います。このことを子供に知らせることなく放置している国家は、ドMとしか言いようがありません。

私は[民主党](#)は全く支持していませんが、[自民党](#)政権の怠慢があるとしたら、この件を国民に知らせる努力をしなかったことを挙げたいと思います。



Commented by **花うさぎ** さん

2009/11/03 08:57

To usaginomimiさん おはようございます。

>東京裁判の手法は国際法を真摯に作ってきた人類の歴史への冒涇だという内容に、私も深く頷きます。

2009/11/03 08:58

はい。勝てば国際法を無視しても何でもよい、というのが東京裁判でしたから。

>このことを子供に知らせることなく放置している国家は、ドMとしか言いようがありません。

いまだ左翼の言論空間が主流の悲劇ですね。

> 自民党政権の怠慢があるとしたら、この件を国民に知らせる努力をしなかったことを挙げたいと思います。

残念ながら、その 自民党でもこの歴史観を支持する保守は今でも少数派で、どんどん左に流されてきた、というのがこの数十年でした。安倍政権の時に千載一遇のチャンスだったのですが。



Commented by **花うさぎ** さん

・お知らせ 日の丸を掲げましょう！

2009/11/03 09:20

本日、11月3日は明治節(文化の日)、国民の祝日です。

皆さん、自宅に日章旗を掲げましょう。



Commented by **miestique** さん

おはようございます。

紹介された書籍、ぜひとも読みたいです！

っていうより、全国の図書館に収蔵されてしかるべきでしょう。

2009/11/03 09:31

>東條総理は事前には真珠湾奇襲を知らされておらず、ミッドウェー敗戦に至っては
>遂に海軍から知らされなかったのである。

これを読んで、去年出版された

転進瀬島龍三の「遺言」(単行本) 新井 喜美夫 (著) に書かれていた証言が
本当だったんだ！・・・と激しく納得しました。

瀬島龍三が、東條首相は連合艦隊がとつくに壊滅していたことを、終戦直前まで知らなかった

と証言していたそうなのですが、Amazonの書評などでは、嘘八百として、著者を激しく批判する内容ばかりだったので、真偽はどんなものか？ と思っていたんです。

あの大東亜戦争の意義を正しく理解することは勿論大切ですが、敗戦に対する総括も失敗を繰り返さない為には絶対に必要なことですよ。それを阻止してきたのも戦後のアメリカによる日本弱体化政策の一端でしょう。



Commented by **花うさぎ** さん

To miestiqueさん

>紹介された書籍、ぜひとも読みたいです！

>っていうより、全国の図書館に収蔵されてしかるべきでしょう。

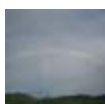
そうですね、推薦図書として地元図書館に要請してみます。

>瀬島龍三が、東條首相は連合艦隊がとつくに壊滅していたことを、終戦直前まで知らなかった

驚愕の事実ですね。陸軍と海軍の反目は良く聞くのですが、ここまでとは？。

>戦後のアメリカによる日本弱体化政策の一端でしょう。

あらゆる意味で反日政策を一掃するのには本当に時間が掛かりそうです。



Commented by **gtea** さん

花うさぎさん、おはようございます。いつも更新ご苦労様です。

貴重な情報ありがとうございます。何とかこの3部作は手に入れたいと思います。

2009/11/03 09:59

戦後の教育によって増長してきたウスラサヨクは、一般庶民だけではなく、今や、我国の舵取りをする政治家にまで及んでいます。少しでも日本を愛する気持ちがあれば、知識の一部として、近代史を調べ直す気が起きてもおかしくない筈ですが、現政権には、そういう知識欲がある方は一人もいないようですね。このままでは、日本は持ちません。[中華人民共和国](#) 自治区までのカウントダウンは日に日に早まっているように感じます。私も一人の日本人の父親として、子供には今の日本が何故こんな風になってしまったのかを、折に触れて話をしていますが、学校で習う日本史とのギャップが激しくて、まだまだ理解しきれているかどうか不安でもあります。友達は、「お前が信用されてれば、お前の言う事が正しいと思うし、逆に信用が無ければ、学校の教科書には勝てないな」と言われ、日々の生活にも緊張感が出てきました。

今日は、朝から国旗を掲げています。清々しい[青空](#)に日の丸が美しくたなびいています。日々精進しなければ、と思います。

2009/11/03 10:24



Commented by [花うさぎさん](#)
To gteaさん おはようございます。

2009/11/03 23:07

>現政権には、そういう知識欲がある方は一人もいないようですね。このままでは、日本は持ちません。

いませんね、逆に自虐史観を強めたい、と言う輩ばかりが目につきます。

>[中華人民共和国](#) 自治区までのカウントダウンは日に日に早まっているように感じます。

はい、尖閣・沖縄は非常にまずい状況になっています。

>学校で習う日本史とのギャップが激しくて、まだまだ理解しきれているかどうか不安でもあります。

これは辛抱強くやるしかないですね。お子さんが大きければ「凜として愛」を是非見せてあげてください。これが本当の近現代史だと。

>今日は、朝から国旗を掲げています。清々しい[青空](#)に日の丸が美しくたなびいています。

いいですね～、いつまでも日の丸が揚げられるよう我々自身がしっかりしないとけないと思います。



Commented by [泥沼没彦さん](#)
花うさぎさん。
紹介された本読んでみます。

もう、お読みになっているとは思いますが、戦争関連でしたら『大東亜戦争とスターリンの陰謀』三田村武夫著、自由社が面白いですよ。名著でしょう。ところで、日本人が知ってはいけない歴史＝日本の素晴らしい歴史です(笑)革命史観の教科書や、それから脱却できないお馬鹿な先生がたからは、真実は学べません。これももう読破されているとは思いますが渡辺京二『逝きし世の面影』『日本近世の起源』は、名著です。戦争関連ではないですが、どれだけわれわれが学校で嘘の歴史を学んできたかが分かります。



Commented by [花うさぎさん](#)
To 泥沼没彦さん こんにちは。

2009/11/04 01:05

>『大東亜戦争とスターリンの陰謀』三田村武夫著、自由社が面白いですよ。名著でしょう。

はい、これは拝見しています。

>渡辺京二『逝きし世の面影』『日本近世の起源』は、名著です。

これはまだです(^_^;)。ご紹介ありがとうございます。読むべき本は山のようにありますね。

>戦争関連ではないですが、どれだけわれわれが学校で嘘の歴史を学んできたかが分かります。

2009/11/04 20:58

つくづく教育って恐ろしいと思います。現在、保守論壇で活躍されている方も、意外と最近になって事の真相を知ったという方が多いですね。



Commented by [makomakomako](#) さん

2009/11/04 21:13

こんばんは。

[アメリカ合衆国](#)というのは、
建国からずっと陰謀国家、
[やらせ](#)国家ですね。

自作の詩です。

～だから雨が降る～

戦争するために仕組まれた
テロだと知らされず多くの人々が
コンクリートにはさまれて
炎にのまれて死んでいった

[パールハーバー](#)を思い出せと
原爆を落としたその国が
9.11を思い出せと
イラクの民を撃ち殺す

[ボストン茶会](#)事件を知ってるかい？
ヤラセの事件で独立戦争
メイン号事件を知ってるかい？
またまたヤラセで[スペイン](#)と戦争

北ベトナムのトンキン湾じゃ
事件をでっち上げて[ベトナム戦争](#)
一部の奴らの利益のために
いくらの無辜が死んだことか

歴史は繰り返すと言うけれど
同じ手口で何度も何度も
ちょっと考えてみてほしい
一体誰が得をしたのか！

だから雨 雨 雨雨雨 雨が降る



Commented by [花うさぎ](#) さん

To makomakomakoさん こんばんは。

>[アメリカ合衆国](#)というのは、
>建国からずっと陰謀国家、
>[やらせ](#)国家ですね。

はい、激しく同意致します。「世界は腹黒い」とネーミングしたのも当初はアメリカの建国以来の悪事の数々を書きまくろうと思って付けたのです。

>自作の詩です。

ズバリ、急所をついてますね(^ ^;)。どんなメロディが合うのかな？。

Commented by [元氣](#) さん

2009/11/24 12:35

こんには。

2009/11/24 13:47



遅いコメントで失礼します。
今、この記事の全文拝見しました。

素晴らしい論の展開ですね。
西村真悟氏、素晴らしいですね。

ぜひ、三冊、購入し読みたいです！
読後、記事にもしたいと思います。

まさしく正論ですね。

>ヤルタ密約とプリンス・オブ・ウェールズでの謀議の「アジアにおける欺瞞性」を指摘できるのは、唯一アジアの日本だけである。日本政府は、今こそ歴史回復戦略を立てて「日本人が知ってはならない歴史」を取り戻さねばならない。

>そして今もインド洋は、我が国の経済活動を支える重要な海洋である。この海洋を通るルートがなければ我が国は存立できない。従って、この大切な海洋における我が国のプレゼンスを、またも自ら放棄しようとする現鳩山内閣の動きに不吉な予感がするのである。

>このように、歴史を回復することと、国家と国民の安泰を確保するあるべき国家戦略の策定は不可分である。さらに、歴史の回復なくして、我が国の自信と誇りは回復できない。

>そして歴史を回復すれば、現在の政界の表面にいる「政治家」といわれる人士が如何に軽薄な輩であるかが分かる。チャーチルが言うように、政治家の使命感は歴史を学ぶことによって得られるからである。

真の歴史を学ぼうとしない政治家。
そんな政治家を選ぶ国民。
根の深さが問題の深刻さを思わずにはいられません。

失礼しました。



Commented by **花うさぎ** さん
To 元気さん こんにちは。

2009/12/07 11:02

>西村真悟氏、素晴らしいですね。

彼は一貫していますよ(^ ^)。

>ぜひ、三冊、購入し読みたいです！
>読後、記事にもしたいと思います。

その後、続編に近い「昭和天皇の墓参り」もあげましたのでお時間があつたらご一読を。
[昭和天皇とA級戦犯](#) & [靖国神社](#) 問題に決着がついたと喜んでます。

>真の歴史を学ぼうとしない政治家。

本当に普通の主婦の皆さんでもこれだけ勉強されて行動しているというのにいまの国会議員は何をしているのか！と云いたくなりますね(^ ^)。

>そんな政治家を選ぶ国民。

真実を伝えないマスコミも「日本の敵」ですよ。



Commented by **元気** さん
おはようございます。

三冊全て届きました。
(増刷されたようで手に入りやすくなってます)
素晴らしい本ですね。



Commented by [花うさぎさん](#)

2009/12/07 12:28

To 元気さん こんにちは。

>三冊全て届きました。
>(増刷されたようで手に入りやすくなってます)

それなら書店にも在庫がありそうですね。

>素晴らしい本ですね。
>一人でも多くの方に読んでいただきたい本です。

はい、この本を読んで著者の講演でも聴けば最強でしょう。

>「昭和天皇の墓参り」と共に後ほどトラックバックさせていただきます。

ありがとうございます。拝見します(^ ^)。



Commented by [yaharoshayaさん](#)

2012/07/08 11:24

教えられることが多い内容です。

ただ次ぎの点に先生は重大な誤解をされています。
(先生以外の多くの作家のみなさんも)

○真珠湾攻撃は、

- ①天皇陛下も予め承認
- ②政府代表の東条首相も予め知っていた
- ③陸軍も知っていた
- ④作戦は陸海軍合意の上

なのです。

○東条さんは「東条英樹宣誓供述書」の中で自ら「[ハワイ](#)作戦は参謀総長より承知していた」と証言しています。他にも何箇所も作戦を知っていたことを示す部分があります。
出典:「大東亜戦争の真実—東条英樹宣誓供述書」ワック出版

○少なくとも11月はじめには「真珠湾作戦」は陸海軍協同で合意の上で立案され、[天皇](#)も承知していた。

1941年11月8日に「海軍作戦計画ノ大要」を海軍軍令部総長永野修身と陸軍の参謀総長杉山元が侍従武官長宛てに発信している。これには海軍軍令部次長伊藤整一と陸軍参謀本部次長塚田功ら総務部長、主任部長、主任課長など作戦の中枢部の軍人が名を連ねている。この上奏文は、陸海軍高官が認めた最終攻撃計画であり、開戦予定日(12月8日)の1ヶ月前に真珠湾攻撃計画も含め、大元帥昭和[天皇](#)に報告された。

「海軍作戦計画ノ大要」

「兵棋ニ依ル作戦計画御説明ニ関スル件」(1941年11月8日)

謹ミテ海軍作戦計画ノ大要ニ付奏上致シマス

第一段作戦ニ於ケル陸軍ト協同シテ行フ南方要域ノ攻略作戦ニ関シマシテハ只今参謀総長ヨリ奏上致シマシタ通で御座イマ

スノデ此処ニハ海軍単独ノ作戦ニ関シ申述ベルコトト致シマス

開戦劈頭比島及馬来ニ対スル先制空襲ト成ルベク時ヲ同ジク致シマシテ第一航空艦隊司令長官ノ率キル航空母艦六隻ヲ基

幹トスル機動部隊ヲ以チマシテ布哇在泊中ノ敵主力艦隊ヲ空襲致シマス

右機動部隊ハ千島ニテ補給ノ上開戦十数日前内地ヲ進発致シマシテ布哇北方ヨリ近接シ日出一、二時間前「オアフ」島ノ北

方約二百哩附近ニテ全搭載機約四〇〇機ヲ発進セシメ碇泊中ノ航空母艦、戦艦竝ニ所在航空機ヲ目標トシテ奇襲攻撃ヲ加フ

ル計画テ御座イマス・・・以下略。

出典:参謀本部作戦課『昭和十六年上奏関係文書綴』〔[防衛庁防衛研究所図書館所蔵](#)〕
巻一所収

2012/07/08 11:35



Commented by [yaharoshaya](#) さん

多くの日本人がこの本を読まずに歴史を論じている。
そして、多くの誤った内容の本が作られている。

みんなが読むべきと思っています。

占領軍により発禁とされ何年か前まで人目にふれることはなかったこの本は孫の由布子さんにより発見されて再び世に現れた。

東条首相はこう述べている、

「日本は侵略戦争をしたのではなく、自衛戦争をしたのだ。自分は開戦の責任者であり、日本という国家を弁護するのは自分以外にない。それを表明する、その為に、私は生き恥をさらしてでもこの法廷に立たせてもらった。私に発言のチャンスくれたこの東京裁判の法廷に心から感謝している。」と。

出典:「大東亜戦争の真実—東条英樹宣誓供述書」ワック出版